

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化		
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信		
主な取組	沖縄芸能活用プロモーション事業	実施計画 記載頁	56
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣し公演を実施し、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	14回 海外公演					→	県
	組踊など厳選した沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣して公演を実施						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	83,342	74,281	平成27年度までに海外公演計画回数を大幅に上回り、沖縄の文化・伝統芸能の発信を十分に行ったため、増加する外国人観光客を対象とするコンテンツの提供に向けた取り組みに軸足を移した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
海外公演回数			14回	0回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
未着手	毎年度、計画回数以上の公演を実施している。また、平成28年までの計画公演回数は70回(14公演×5年)となっているが、これまでに190回の海外公演を実施し計画回数を大幅に上回っており、沖縄の文化・伝統芸能の発信は十分に行ってきた。このため、海外への芸能団体の派遣から、増加する外国人観光客を対象とした文化・伝統芸能コンテンツの提供に向けた取り組みに軸足を移した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	84,998	引き続き、海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携を図り情報発信の実施や公演チケットの預託販売を実施するとともに、県内で実施する舞台公演ガイドの多言語化を実施する。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①アジア地域を中心に堅調に伸びている海外からの観光客に向けて、新しい観光コンテンツとして県内で実施している舞台公演の鑑賞促進を図るための取り組みを進める。</p> <p>②具体的には、芸能団体を海外へ派遣し公演を実施することに替えて、海外現地において人気がある日本旅行サイト等のライターを県内で実施する公演に招聘し、当該サイトへの記事掲載等を行い海外での情報発信を行う。</p>	<p>①海外からの観光客に対する県内公演鑑賞促進をはかるため、公演ガイドや公演内容解説の多言語化を行った。また、台湾の旅行関連情報サイトの記者を招聘し公演鑑賞し当該サイトで記事として取り上げてもらうなど、情報発信も行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	—				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因 ・平成28年までの計画公演回数が70回(14公演×5年)となっているが、これまでに190回の海外公演を実施し計画回数を大幅に上回った。</p> <p>○外部環境の変化 ・台湾や韓国をはじめアジア地域を中心に、海外からの入域観光客数が増加傾向にある。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・海外公演については、平成28年までの計画公演回数を大幅に上回り、沖縄の文化・伝統芸能の発信は十分に行ってきたため、海外への芸能団体の派遣を取りやめる。</p>

4 取組の改善案(Action)

<p>・海外公演については、平成28年までの計画公演回数を大幅に上回り、沖縄の文化・伝統芸能の発信は十分に行ってきたため、海外への芸能団体の派遣を取りやめる。</p> <p>・今後は、文化観光戦略推進事業において、増加する外国人観光客を対象とした文化・伝統芸能コンテンツの提供に向けて取り組む。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
(施策の小項目)	沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	世界エイサー大会開催支援事業	実施計画 記載頁 56
対応する 主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	エイサーを新たな観光資源として、さらに魅力を高め、本県の観光、文化振興に結びつけていくとともに、青年交互の交流と青少年の健全育成を図る事を目的に、エイサー発祥の地、沖縄で県内外、海外のエイサー団体を集めた世界大会を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	負担金の 抛出	民間主体による大会開催					県 実行委員 会
担当部課	文化観光スポーツ部文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
エイサーエキスポ委託事業費	9,333	8,616	世界のウチナーンチュ大会において、海外や県外の団体も参加し、伝統と創作のエイサーを一挙に観覧できるプログラムやエイサーの歴史を学ぶ歴史展及びエイサー等を通じた体験型ワークショップを実施。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成25年度～27年度まで実施したエイサー普及啓発事業により、エイサー指導員・エイサー団体の県内外への派遣や海外の団体の招聘などを行った結果、第6回世界のウチナーンチュ大会関連イベントの「エイサーエキスポ」実施へ繋ぐことができた。エイサーエキスポでは、海外や県外の団体も参加し、エイサーの魅力国内外へ発信し、交流推進を図ったことにより順調とした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
—	—	—	—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①過去6年間の事業実施において国内外におけるエイサーを通じた交流のネットワークを構築してきた。今後はこのネットワークを活用した文化交流の推進と発信の手法を検討していく。	①これまでの取組や交流のネットワークの集大成として、世界のウチナーンチュ大会において、伝統と創作のエイサーを一挙に観覧できるプログラムだけでなく、エイサーの歴史を学ぶ歴史展やびエイサー等を通じた体験型文化交流等を組み込んだ、エイサーエキスポの実施へと繋げることができた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
世界エイサー大会の来場者数	64,900人 (23年度)	5,621人 (28年度)	100,000人	△59,279人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
世界エイサー大会の来場者数	2,900人 (26年度)	2,600人 (27年度)	5,621人 (28年度)	↗	—

状況説明	基準年となった平成23年度は、県主導の実行委員会により開催していたが、平成25年度から民間主導で実施することにもない、開催場所を奥武山運動公園から国立劇場おきなわへ変更するなど、開催内容の変更を行った。平成28年度は世界のウチナーンチュ大会関連イベントとして昨年度実績を大きく上回る5,621人が来場し、エイサーの魅力発信と文化交流を促進を図った。
------	--

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <p>・世界エイサー大会については、平成22年度から平成24年度までの3年間は県主導による実行委員会を実施し、「エイサーを活用した新たなイベントの創出」、「エイサーの魅力国内外へ発信」、「エイサー団体の相互交流」といった事業目的を一定程度達成した。平成25年度からは民間主導型へ移行し、県として側面的な支援を行っている。</p> <p><u>○外部環境の変化</u></p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・平成28年度は世界のウチナーンチュ大会主要イベントとして、エイサーエキスポを開催し関連イベントも含め5,621人が参加した。次年度以降の開催については、民間主導により関係団体や市町村との連携強化や、これまで培ってきた交流ネットワークを活用した推進を図れるよう検討する。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流の推進と発信の手法を検討していく。</p>
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信			
主な取組	沖縄国際アジア音楽祭の開催支援	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄国際アジア音楽祭については、沖縄の音楽を文化産業として発展させることを目的として、様々なライブステージイベント等を開催している。さらなる目的達成のため、沖縄の音楽産業の発展に関する音楽カンファレンスを音楽祭と連携して開催する等し、沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	沖縄音楽産業の振興に資するシンポジウムの開催等による支援						県
担当部課	沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
—	—	—	—	—
活動指標名			計画値	実績値
沖縄国際アジア音楽祭と連携した沖縄音楽産業の発展に資するシンポジウムの開催			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
大幅遅れ	沖縄国際アジア音楽祭については、県主導により平成21年度から3年間にわたり事業を実施してきたが、平成24年度からは県から民間へ運営が移管され、沖縄市を中心に平成27年度まで実施されてきた。平成28年度は収益の確保が難しかったことから事業を見直して開催せず、平成29年度以降に検討することとした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
—	—	—		—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①沖縄の音楽産業の発展に資する取組みのあり方を検討していく。	①平成28年度は収益の確保が難しかったことから事業を見直して開催せず、平成29年度以降に事業の展開を検討することとした。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
沖縄国際アジア音楽祭の来場者数	36,000人 (23年度)	0 (28年度)	45,000人	△36,000人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	沖縄国際アジア音楽祭については、県主導により平成21年度から3年間にわたり事業を実施してきたが、平成24年度からは県から民間へ運営が移管され、沖縄市を中心に平成27年度まで実施されてきた。しかし、平成28年度は収益の確保が難しかったことから事業を見直して開催せず、平成29年度以降に検討することとした。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <p>・沖縄国際アジア音楽祭については、県主導により平成21年度から3年間にわたり事業を実施してきたが、平成24年度からは県から民間へ運営が移管され、沖縄市を中心に平成27年度まで実施されてきた。平成28年度は収益の確保が難しく、発展的な取組に繋げることが出来なかったため、今後の開催については平成29年度以降に検討することとした。</p> <p><u>○外部環境の変化</u></p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・沖縄の音楽産業の発展に資する取組みのあり方を検討していく。</p>

4 取組の改善案(Action)

<p>・沖縄の音楽産業の発展に資する取組みのあり方を検討していく。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信			
主な取組	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	外国人観光客に向けた沖縄の文化・芸能を活用した観光コンテンツのプロモーションを実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
			来訪した外国人観光客に向けた効果的なセールスプロモーションの実施			→	県
	海外の各種拠点を通じた発地特性を踏まえたセールスプロモーションの実施						
	海外の主要観光関連媒体への露出強化						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	83,342	74,281	海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携を図り情報発信の実施や公演チケットの預託販売を実施するとともに、県内で実施する舞台公演ガイドの多言語化を実施した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
公演ガイドの多言語化			-	4言語化
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	舞台公演を鑑賞した外国人にアンケートで当該公演の情報入手方法等を確認したところ、公演情報を掲載したサイトを観た、公演を鑑賞した方や旅行代理店等でチケットを購入した、飲食店等に設置した多言語公演ガイドをみた等の回答があったことから、順調とした。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	84,998	引き続き、海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携して、情報発信の実施や公演チケットの預託販売を実施するとともに、県内で実施する舞台公演ガイドの多言語化を実施する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度取組改善案	反映状況
<p>①アジア地域を中心に堅調に伸びている海外からの観光客に向けて、新しい観光コンテンツとして県内で実施している舞台公演の鑑賞促進を図るための取り組みを進める。</p> <p>②具体的には、芸能団体を海外へ派遣し公演を実施することに替えて、海外現地において人気がある日本(沖縄)旅行サイト等のライターを県内で実施する公演に招聘し、当該サイトへの記事掲載等を行うなど、海外での情報発信を継続して実施する。</p>	<p>①、②海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携して情報発信を行うとともに、公演チケットの預託販売を実施することで、県内で実施する舞台公演の鑑賞機会の創出に繋げることができた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	—				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p>
<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾や韓国をはじめアジア地域を中心に、海外からの入域観光客数が増加傾向にある。 ・那覇-バンコク間に新たに直行便が就航するなど、タイを中心とする東南アジア地域からの入域観光客の増加が見込まれる。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える必要がある。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信	
主な取組	沖縄伝統空手道継承・発展事業	実施計画 記載頁 57
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄空手を保存・継承・発展させるため、国際セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し、国内外での沖縄伝統空手の普及・啓発並びに世界の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・後継者の育成を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		沖縄空手の普及・拡大				→	県
		指導者・後継者の育成					
担当部課	文化観光スポーツ部 空手振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄伝統空手道継承・発展事業	61,147	59,028	<p>沖縄伝統空手・古武道国際セミナーを8月に実施したほか、空手指導者をロシア、カナダ、東京の3カ所に派遣し、現地でのセミナー開催及び沖縄空手や空手会館に関する情報の発信を行った。</p> <p>また、10月23日に開催した「空手の日記念演武祭」では、約4千人での一斉演武を行い「最多人数による空手の形」としてギネス世界記録を更新し、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に情報発信した。</p> <p>さらに、平成30年8月に開催する「第1回沖縄空手国際大会」に向けて、平成29年1月16日に実行委員会を組織し、広報事業等を実施している。</p>	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの開催			—	1回

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果
順調	<p>平成28年度は、8月に沖縄伝統空手・古武道国際セミナーを開催し、20の国・地域(日本を含む)から87名の参加があった。また、ロシア、カナダ、東京に計10名の空手指導者を派遣し、空手セミナー及び現地での情報発信を行った。</p> <p>10月23日には、那覇市国際通りにおいて「空手の日記念演武祭」を開催し、約4千名での一斉演武を行い、「最多人数による空手の形」としてギネス世界記録を更新し、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に情報発信した。さらに、平成30年8月に開催する「第1回沖縄空手国際大会」に向けて、平成29年1月16日に実行委員会を組織し、広報事業等を実施している。</p> <p>これにより、「空手発祥の地・沖縄」の国内外への発信、沖縄空手の普及・拡大及び指導者・後継者の育成を図ることが出来た。</p>

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県空手振興事業	247,063	<p>「沖縄伝統空手道継承・発展事業」は平成28年度で終了し、平成29年度からは「沖縄県空手振興事業」として引き続き、沖縄空手の普及・継承・発展に取り組む。</p> <p>これまで実施してきた、国際セミナー事業、指導者派遣事業、空手の日記念演武祭事業、第1回沖縄空手国際大会開催事業は継続し、新たに、①沖縄空手の目指すべき将来像やそれを実現するための施策を示した「空手振興ビジョン(仮称)」の策定、②国内外から空手愛好家の受入、問合せ対応のための「沖縄空手案内センター」の開設、③空手会館を活用した広報、資料収集、調査研究、④沖縄空手の各流派の研究事業等を実施する。</p>	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度取組改善案	反映状況
<p>①イベント情報の早期周知、空手関係団体ホームページへの情報掲載、SNSの活用等により情報発信を強化するなどし、広報周知の改善を図るとともに、空手界と協力して情報発信ネットワークの構築に努める。</p> <p>②平成28年度には沖縄伝統空手の発信拠点となる沖縄空手会館が開館することとなり、沖縄伝統空手の振興に向けた本格的な事業展開がスタートする。空手界、行政等が連携して沖縄伝統空手を広く発信し、普及・発展を図っていけるよう、空手の実態調査を行うとともに、一層の振興に向けた事業施策を検討する。</p>	<p>①イベント実施に係る委託契約、関係団体との調整等を年度当初から取り組むとともに、県及び関係団体等のホームページを活用し、イベントの周知徹底を図った。それにより、国際セミナーの参加者数も増加している。</p> <p>②平成29年3月に、「空手発祥の地・沖縄」発信の拠点施設となる沖縄空手会館をオープンした。空手界、行政等が連携して沖縄空手の保存・普及・発展に向けて取り組むため、空手の実態調査を行った。</p>

様式1(主な取組)

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28年度目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	80 (H24年度)	1,188 (H28年度)	1,000	1,108人	-
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
-	-	-	-		-
状況説明	<p>・県外・海外からの空手関係者来訪は、県主催の国際セミナー及び民間主催セミナー(県後援)の参加者数により確認した。今後は沖縄空手会館の供用開始(平成29年3月)に伴い、空手関係者(県外、海外)の来訪者動向が把握できることから、当該来訪者数も加えて実数の把握に努めたい。</p> <p>・これまで沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの開催、指導者の海外派遣及び空手の日記念演武祭を開催するなどし、沖縄伝統空手・古武道の普及と空手発祥の地・沖縄の発信に努め、国内外の空手愛好家の来訪促進を図った。</p> <p>・引き続き本事業の取組みを推進するとともに、平成28年度中に沖縄空手会館が供用開始されることから、沖縄空手会館を拠点として空手発祥の地・沖縄を世界に発信するとともに、国際イベント等の開催により受入体制の強化を図ることにより、国内外の空手愛好家の来訪を促進できるものと考えている。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際セミナーは参加者数の増加が見られるが、沖縄伝統空手の取組について、広く認知されている状況とはいえない。 ・空手の日記念演武祭では、一斉演武においてギネス世界記録を更新し全世界に向けてPRを行った。今後も、国際セミナー等を実施するなど継続的にPRする必要がある。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月に、沖縄空手を国内外に発信する拠点となる「沖縄空手会館」を供用開始し、今後は空手会館を中心とした沖縄空手の振興に向けた事業展開に取り組む。 ・2020年東京オリンピックにおいて、空手が正式種目として採用されたことから、「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する絶好の機会と捉え、より一層効果的な事業の推進に取り組む。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄空手に関する県の取組について、広く認知されている状況とはいえず、情報発信の方法等について検討が必要である。 ・平成29年3月に沖縄空手の発信拠点となる沖縄空手会館を供用開始した。空手界、行政等が連携して沖縄空手を広く発信し、普及・発展及び指導者・後継者の育成を図っていくために、更なる事業展開策を検討し、沖縄伝統空手の振興を一層進める必要がある。

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月に沖縄空手の発信拠点となる沖縄空手会館を供用開始した。沖縄空手の振興に向けた本格的な事業を展開する体制を構築し、これまで以上に空手界、行政等が連携して沖縄空手を広く発信し、普及・発展を図りつつ、指導者・後継者の育成を図っていけるよう、一層の空手振興に向けた事業施策を検討する。
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	○国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発言			
主な取組	ハワイ大学等交流事業	実施計画 記載頁	57	
対応する 主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	ハワイ大学や東西センターと連携し、「沖縄学」に関する共同研究や、ハワイ語及びしまくとぅばの普及継承に関する相互交流などをおし、地域文化の継承・発展を担う人材を育成する体制の充実を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
					学術的・ 文化的な 交流の推 進	→	県
担当部課	文化観光スポーツ部文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
ハワイ大学等交流事業	21,198	20,776	ハワイ大学との協定を締結し、また、東西センターとも連携し、芸能公演、文化展の開催、芸術ワークショップ、「ハワイ語」普及に関する学術交流を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
学術文化交流の推進			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	ハワイ大学とのMOUの締結、「沖縄学」研究センターとの交流や、東西センターも加わっての芸能公演、文化展の開催により、沖縄・ハワイ相互の文化の担い手人材の交流、学術交流体制を構築した。 また、芸術ワークショップの開催や、「ハワイ語」教育の現場教師との交流を通して、地域文化を継承する教育の先進事例を調査した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
ハワイ大学等交流事業	10,000	本学独自のしまくとぅば音楽芸能・美術工芸教育カリキュラム開発のために、ハワイ大学ヒロ校との連携により、同校および附属教育機関での実践活動を先行事例として調査研究を行う。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
—	①ハワイ出身の非常勤職員を雇用し、現地との調整役として活用し、協定書の文案の作成補助や現地でのイベント、日程調整などがスムーズに行えた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
海外姉妹校数	10校 (平成26年)	10校 (平成27年)	11校 (平成28年)	↗	—
状況説明	本学では平成27年度までに10校の海外姉妹校があり、平成28年度に新たにハワイ大学とMOUを締結し、文化継承の先進事例としてハワイ大学におけるハワイ語教育の現場を調査するなど、学術交流を行った。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <p>・沖縄における音楽芸能・美術工芸の伝承と創造の現場における、文化としてのしまくとぅばが教材化されていない。</p> <p><u>○外部環境の変化</u></p> <p>・「しまくとぅば」を理解することを通して、地元の素材のもつ魅力を知り、地域に根差した美意識や感情表現を教員・学生が身につけることにより、その成果が沖縄の伝統文化継承につながるものが求められている。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・文化としてのしまくとぅばの普及・継承へ応用すべく、本事業のモデルケースであるハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部・同附属幼稚園において、ハワイ語復興による教育実践に関する情報を収集し、その教育研究成果を把握する。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・本プロジェクト主催による「しまくとぅばカリキュラム研究会」を月1回開催し、言語・文化、音楽・芸能、美術工芸の専門用語として用いられている「しまくとぅば」を洗い出すことから始めるなど、帰納的なアプローチが有効だと考える。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の形成		
主な取組	「沖縄空手会館」の整備	実施計画 記載頁	57
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、沖縄空手会館を建設する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本計画						県
	測量・土質調査						
	基本設計	実施設計					
		建設工事等		供用開始			
担当部課	文化観光スポーツ部 空手振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	2,281,419 (1,106,046)	2,054,927 (1,106,046)	沖縄空手会館武道棟の工事で一部残工事はあるものの、建物は完成し供用開始した。展示資料の調査収集検討を行った。指定管理者の指定を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
やや遅れ	当初、平成27年度の供用開始を目指していたが、相続手続きのされていない共有地の購入等に不測の時間を要し、本体工事の着手が平成26年度末となったことから、平成27年度は、平成28年度供用開始を目標に取り組んだ。条例の整備、指定管理者の指定、関係機関との調整を進め、平成28年度に供用開始したが、一部外構工事等が残っている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	0 (266,112)	供用開始したものの、一部残っている外構工事等を引き続き進める。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①工程の進捗を確認していく。 ②沖縄空手会館の指定管理者を選定する。 ③平成28年度中の供用開始を目指す。	①展示棟工事、武道棟工事、常設展及び企画展を完了させた。 ②管理運営については、指定管理者を指定した。 ③落成記念式典を開催した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28年度目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	80人 (H24年度)	1,188人 (H28年度)	1,000	1,108人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	県外・海外からの空手関係者来訪は、県主催の国際セミナー及び民間主催セミナー(県後援)の参加者数により確認した。今後は沖縄空手会館の供用開始(平成29年3月)に伴い、空手関係者(県外、海外)の来訪者動向が把握できることから、当該来訪者数も加えて実数の把握に努めたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の建築工事は年度内に完了したが、当初予定より遅れがあったことから、現場調整の上購入を予定していた一部の備品購入が遅れた。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空手会館外構工事に一部、工事の遅れが生じている。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・随時、工程の進捗を確認し、スケジュール管理を密に行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・随時、工程の進捗を確認し、スケジュール管理を密に行う。
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	文化発信交流拠点の形成			
主な取組	文化発信交流拠点の整備	実施計画 記載頁	57	
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	構想策定	文化発信交流拠点の整備				→	県
担当部課	文化観光スポーツ部文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化発信交流拠点整備事業	8,610	251	これまでの施設整備に関する検討において、整備エリアを国立劇場おきなわ周辺エリアと決定した。当該検討結果を踏まえ、エリア内における施設整備場所の絞り込みについて浦添市をはじめとした関係機関との検討を行った。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
大幅遅れ	施設整備を検討しているエリア内にある組踊公園は浦添市が整備し都市計画決定を受けた都市緑地となっているため、当該公園内に施設整備をするための条件整理等について、浦添市をはじめとした関係機関との調整に時間を要している。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化発信交流拠点整備事業	10,670	引き続き施設整備場所の決定に向けて関係機関との調整を進めるとともに、平成25年度に策定した基本計画における施設整備計画の内容について、施設整備場所に合わせた施設規模の見直しや施設内の諸室配置の検討等、施設整備に係る詳細検討を実施する。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
・浦添市をはじめとした関係機関とのより一層の連携を図り、一体的に取り組むを進め、早期に施設整備場所の決定を行う。	①浦添市の公園整備関係部署をはじめ、当該事業の関係部署を交えて調整を行ってきたが、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要している。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	施設整備基本計画における施設整備エリアの都市計画関連の条件整理や調整に時間を要しているため、施設整備場所の決定が遅れている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定したエリアは、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要する。 ・当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市であることから、都市計画決定の変更(廃止)は浦添市が実施することになる。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇市新市民会館や琉球新報ホールが整備されることにより、那覇市内における劇場機能が強化される。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定を行わない施設整備のあり方も含め、引き続き、浦添市をはじめとする関係機関との連携の強化を図るとともに、施設整備に係る要件整理や施設整備場所の検討に係る委託業務を実施する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定を行わない施設整備のあり方も含め、引き続き、浦添市をはじめとする関係機関との連携の強化を図るとともに、施設整備に係る要件整理や施設整備場所の検討に係る委託業務を実施する。
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化		
(施策の小項目)	○文化発信交流拠点の形成		
主な取組	琉球王国文化遺産集積・再興事業	実施計画 記載頁	57
対応する 主な課題	○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して国内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
				資料調 査・設計	王国文化 遺産の再 興による 複製品製	→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	152,695	150,657	8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)の模造復元品の制作を開始し、染織4件、金工3件の計7件が完成した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
模造復元品の製作			—	7件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成27年度に作成した実施設計書を元に、今年度から8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)合計55件の模造復元品の制作を開始し、平成28年度は、染織4件、金工3件の計7件が完成した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	184,206	平成29年度は、前年度から引き続き模造復元品の制作を行うとともに、新たに絵画、木彫、石彫等合計9件の制作を開始する予定である。	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)等、王国時代の至高の技を現代に再現させるため、個々の模造復元の製作管理体制の強化を図る。</p> <p>②貴重な文化財を後世に残すため復元の作業工程を記録保存管理する。</p> <p>③琉球王国文化遺産の成果をより効果的に発信する方法を調査する。</p>	<p>①外部有識者からなる監修者会議を開催し、工芸関係者、県立芸術大学、東京芸術大学等の協力により復元品を製作した。</p> <p>②技の伝承や再興のため、復元の作業工程を、文字、画像、映像により記録した。</p> <p>③沖縄県立博物館・美術館の常設展示や特別展のほか県外に向けての効果的な発信方法について調査を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	<p>沖縄の貴重な文化財を後世に引き継いでいくことを目的に、戦災等により失われた8分野の工芸品製作の手わざを復元する。平成27年度には、監修者会議や復元資料の分析を行い製作仕様を確認し、実施設計書を作成した。平成28年度は設計書に基づき復元品の製作を行った。</p>
------	---

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>・実際の製作過程で新たな知見を得ることがあるため、工程管理に注意しながら製作を進める必要がある。それら各分野の模造復元に係る基本情報と製作工程を記録保存し、後世のための基礎資料とする必要がある。</p>
<p>○外部環境の変化</p> <p>・復元にあたっては、X線等で残存する資料から原材料を調査したうえで、現代で調達できる原材料や用具を確保しながら進める必要がある。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・製作品が8分野にわたりかつ専門性が求められるため、引き続き監修者と製作者の情報共有等の連携を強化する等、管理体制に万全を期す必要がある。</p> <p>・復元品の展示公開について、連携予定の博物館と調整を行い効果的な発信につなげる。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・適正な製作を行うため8分野の監修者会議を開催する。また、模造復元資料の製作過程を論文等で発表する。</p> <p>・展示発信に係る県内博物館等施設との検討調整を行う。</p>
